

書誌第105号追

九州沿岸水路誌

追補第4

令和4年（2022）12月16日発行



海上保安庁

九州沿岸水路誌

追補第4

この追補は、令和3年3月刊行の九州沿岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和4年11月25日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和4年12月16日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
18	第7章 航行に関する諸注意、漁業／第8章 海難防止、海難	追補第1の当該ページは無効
100	松島水道	
101	瀬戸港	
112	島原港	
118	熊本港	
122	三角港	
126	本渡瀬戸	追補第2の当該ページは無効
127	本渡港	
157	里港	
176	志布志港	
183	宮崎港	
193	宮之浦港	
200	名瀬港	

漁業用海図 日韓漁業協定の発効を契機に、次の情報を記載した漁業用海図が刊行されている。

- (1) 「領海及び接続水域に関する法律」に基づく領海の基線及び領海（限界）線
- (2) 「排他的経済水域における漁業等に関する主権的権利の行使等に関する法律」に基づく線 ~~(FW1009を除く)~~
- 5 (3) 「漁業に関する日本国と大韓民国との間の協定（平成11年1月22日条約第3号）」に基づく線
- (4) 「漁業に関する日本国と中華人民共和国との間の協定（平成12年6月1日条約第2号）」に基づく線（FW162、FW196を除く）

漁業用海図は、次のとおり

海図番号	図名	縮尺
FW 162	日本海西部	1/120万
FW 196	関門海峡至釜山港	1/25万
FW 210	長崎至厦門	1/150万
FW 1009	日本及近海	1/500万

10

第8章 海難防止

海 難

九州沿岸及び南西諸島では、夏季及び秋季の台風下における海難の発生が他の海域に比べ非常に顕著である。また、外国船海難の割合が多いのもこの海域の特徴である。

15

海難多発海域

海 域 名	種 別	記 事
関門港周辺	中型～小型船の衝突	各種船舶の海難が多い。
倉良瀬戸	小型船の衝突 中小型船の乗揚	浅瀬が多く、初航者は注意が必要。特に地ノ島から鐘ノ岬間の海域では、各種船舶の乗揚げが多い。
福岡湾	中小型船の衝突・乗揚 小型船の転覆	通航船舶隻数が多く、各種船舶の海難が発生している。
玄界灘	大型～小型船の衝突	漁船同士あるいは漁船と貨物船の衝突が多い。
呼子周辺	小型船の衝突 中小型船の乗揚	水路が屈曲し、離陰礁がある。 貨物船及び漁船の海難が多い。
平戸瀬戸	中小型船の衝突・乗揚	浅瀬が多く、水路が屈曲しており、貨物船及び漁船の海難が多い。 初航者は注意が必要。
佐世保～長崎沿岸	小型船の衝突・乗揚	各種船舶の海難が多い。
長崎港周辺	中小型船の衝突 小型船の乗揚・転覆	プレジャーボート等及び漁船の海難が多い。
五島列島周辺	小型船の衝突・乗揚	漁船の海難が多い。
三角及び天草上島南部	小型船の衝突・乗揚	プレジャーボート等及び漁船の海難が多い。
本渡港周辺	小型船の乗揚	プレジャーボート等の海難が多い。
八代海	大型～小型船の衝突・乗揚	各種船舶の海難が発生している。 浅瀬が多く、初航者は注意が必要。
牛深周辺	小型船の衝突・乗揚	プレジャーボート等及び遊漁船の海難が多い。
沖縄本島南部	中小型船の乗揚	珊瑚礁や浅瀬が多く、経験者でも注意が必要。
宮古島北部		
石垣島南部		

松島港 (32° 57' N 129° 36' E) (海図W1230) (JP MAT)

港種 港則法適用港、開港

概要 松島水道西側の松島北岸にある港で、電源開発松島火力発電所があり、石炭輸入の船舶が出入港している。

5 目標

地物名	概位	備考
煙突	32° 56.4' N 129° 35.8' E	高さ184m、白塗
鉄塔	32° 56.2' N 129° 37.3' E	高さ175m、赤白塗

信号 松島防波堤基部の私設信号所において、松島岸壁の使用について管制を行っている。

港湾施設 電源開発松島火力発電所の東側には、会社専用の松島岸壁（長さ132m（係船能力1,000t×1隻）、長さ114m（係船能力5,000t×1隻）、長さ228m（係船能力2,000t×2隻）、長さ255m（係船能力60,000t×1隻））がある。

10 **海上交通** 佐世保～神ノ浦港間の定期旅客船便（135t）及びカーフェリー便（235t）等が寄港する。

松島水道 (32° 56' N 129° 38' E) (海図W204、W1230)

15 **概要** 西彼杵半島・福島～松島間にある水道で、10m等深線間の幅は約300mであるが、險礁が多いのでやむを得ない場合以外は通航しないほうがよい。通航する船舶は大部分が小型船で、地元の漁船がその約半数を占めている。地元の漁船の航行は、特に日没前後に集中する。

なお、松島港～肥前大島港間に定期旅客船便及び定期フェリー便、松島～瀬戸港間及び池島港～瀬戸港～松島港～肥前大島間に定期フェリー便があり水道を横断しているので注意を要する。

潮流 上げ（下げ）潮流は北（南）方へ流れ、最強流速は上げ2.3kn、下げ1.3knである。

20 **針路法** 調査によると通航船は南航、北航とも潮流に無関係に通航しており、日没の前後には漁船が集中する。また、赤バナ曾根灯浮標（32° 56.1' N 129° 37.8' E）と五郎ヶ島間を通航する船舶が多いというが、この付近には水深4.4mの浅所があるので、一般船舶の通航は危険である。

南航する場合

- 1 針路143° で福島外防波堤中央 (32° 56.0' N 129° 38.0' E) に向首する。（椿曾根《ツバキヅネ》 (32° 57.1' N 129° 37.3' E、水深3m) 及びコ瀬南東側にある浅所（水深5.7m）に注意を要する。後記避険線参照）。
- 2 赤バナ曾根灯浮標航過後、松島東岸にある宮島東端 (32° 55.9' N 129° 37.5' E) 正横で針路210° に変針し、ロワタシ鼻 (32° 55.6' N 129° 37.5' E) に向首する。
- 3 五郎ヶ島 (32° 56.0' N 129° 37.6' E) 南端とその西方対岸の岬角北端 (32° 56.1' N 129° 37.5' E) とが一線になる所で針路180° に変針し、母子《ハコ》島 (32° 52.1' N 129° 37.8' E) 西岸に向首する。

北航する場合

- 1 おおむね南航の逆でよいが、針路 000° で赤バナ曾根灯浮標及び松島水道舵掛瀬灯浮標 (32° 56.4' N 129° 37.8' E) を船首やや左に見て進む。
- 2 福島外防波堤南端 (32° 55.9' N 129° 38.0' E) 正横で針路 027° に変針し、瀬戸港北防波堤南灯台 (32° 56.4' N 129° 38.1' E) に向首する。
- 3 赤バナ曾根灯浮標航過後、松島北東端正横で針路 325° に変針する。

5 避険線 シラゴ鼻 (32° 56.8' N 129° 37.6' E) 西端と瀬戸港北防波堤南灯台との一線 (134° 又は 314°) は椿曾根を通る。また、五郎ヶ島東端と福島南西側にある立瀬 (32° 55.5' N 129° 38.0' E、高さ 4.1m) 及び頭《カシラ》島頂 (32° 55.0' N 129° 38.3' E) とを見通す一線 (153° 又は 333°) は松島水道北口の浅所 (32° 56.7' N 129° 37.3' E、水深 5.7m) を通る。

10 架空線 松島水道を横断する 2 架空線 (共に高さ 38m) がある。

15 瀬戸港 (32° 56' N 129° 38' E) (海図W1230) (JP SET)

港種 港則法適用港

概要 松島水道東側にあり、港域は福島北東部～本陸間の埋立地によって二分されている。

20 港湾施設 北部には北防波堤 (南端に灯台がある) と焼島東側及び向島北岸によって囲まれた船だまりがあり、船だまりの北東側に物揚場、カーフェリー岸壁などがある。福島の北西側に外防波堤 (先端に灯台がある) に囲まれた船だまりがある。

架空線 鴨埼 (32° 57.1' N 129° 37.5' E) の南東陸岸から南南西方の松島に至る架空線 (高さ 38m)、焼島南東側船だまり内を横断する架空線 (高さ 21m)、福島南西側の立瀬 (高さ 4.1mの岩) 北北東方 300m付近から松島に至る架空線 (高さ 38m) 及び松島から五郎ヶ島へ至る架空線 (高さ約 13m) がそれぞれある。

25 海上交通 佐世保からの定期旅客船便 (135 t) 及びカーフェリー便 (235 t) 等が寄港する。

池島港 (32° 53' N 129° 36' E) (海図W204)

概要 松島水道の南南西方にある池島の北東部で、塩水湖の東側を開口して築港した港である。

30 港内は東寄りの風が吹く時を除いて風波の影響を受けないが、港口は幅約 40m で狭く、水路を横切る潮流もあるので、風波の強いときの入港は困難である。

針路法 港口は赤塗浮標及び防波堤先端の赤、緑の 2 灯で表示される。導標 3 標一線 (270°) で港内に入る。

港湾施設 港内西側の西部に 7m ドルフィン岸壁があり、港内北部の東側にフェリー岸壁がある。

35 補給 清水はドルフィン岸壁で補給できる。

目標

地物名	概位	備考
島原城天守閣	32° 47.4' N 130° 22.0' E	高さ63m、昼夜とも好目標

針路法 外港に入るには、港の南側にある島原灯浮標(32° 45.3' N 130° 23.0' E)の東方約200mの地点から、モノ瀬灯標(32° 45.8' N 130° 22.7' E)及び島原港防波堤灯台(32° 45.9' N 130° 22.5' E)の南側を通って浮棧橋に向かえばよいが、大平瀬(32° 45.5' N 130° 22.9' E、水深3.6m)及び梶掛瀬(32° 45.6' N 130° 22.9' E、水深4m)などの浅瀬には注意を要する。

なお、島原港防波堤灯台とその北西方の長崎県島原病院(32° 46.2' N 130° 22.1' E)を結ぶ見通し線(314°)は大平瀬上を通る。

港湾施設 外港の港奥北側にフェリー岸壁(長さ約100m×2、水深5m、係船能力1,000t×2)がある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。給油船がある。

10 **修理** 修理のできる造船所がある。

医療施設

名称	電話番号	備考
長崎県島原病院	0957-63-1145	

海上交通 三池港との間に定期旅客船便(19t)、熊本港との間にカーフェリー便(850~1,674t)がある。

島原新港(32° 49' N 130° 22' E) (海図W1477)



15 **概要** 島原港の北北西方約3Mにある貨物専用港である。北防波堤と南防波堤(北端に灯台がある)の西方に泊地(水深5~7.5m)があり、その西岸の工業団地前面には係船施設がある。

海上交通 多比良港〔島原半島北岸〕との間にカーフェリー便（758 t、762 t 及び 888 t）がある。

熊本港 (32° 46′ N 130° 34′ E) (海図W171) (JP KMP)



(2019年12月撮影)

5 **港種** 港則法適用港、開港、家畜検疫の港、植物防疫の港、重要港湾

概要 島原湾東奥にあり、熊本都市圏と直結した人工島形式の流通港湾として、新たに港湾工事を進めている港である。付近は広大な干潟地帯である。この港の背後に**沖新**、**四番**及び**海路口**の各漁港がある。

水路 西方から新港に至る水路は、幅約200m、水深4.5~8mで水路の入口は2灯浮標で表示されている。また、水路の両側には潜堤が築造され、標識灯（黄色）で表示されている。

10 **港湾施設**

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
1号岸壁(-5.0m)	32° 45.8′ N 130° 35.4′ E	236	2~5	1,000×2	フェリー使用
2号岸壁(-5.0m)	32° 45.7′ N 130° 35.3′ E	120	2.5~4.5	700×2	
3号岸壁(-5.5m)	32° 45.7′ N 130° 35.2′ E	180	3~5	2,000×2	
4号岸壁(-5.5m)		89	4.5~6	2,000×1	
5号岸壁(-7.5m)	32° 45.7′ N 130° 35.0′ E	130	7.5	5,000×1	ガントリークレーン

台風・津波対策 本港では、台風・津波等による船舶事故を未然に防止するため、熊本港等船舶津波、台風等対策協議会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している。(問合せ先：熊本海上保安部)

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
長崎税関八代税関支署熊本出張所	096-322-3004	熊本県熊本港管理事務所	096-329-4411
福岡出入国在留管理局熊本出張所	096-362-1721		

15 **海上交通** 対岸の島原港との間にカーフェリー便（850~1,674 t）がある。

注意 大瀬戸では上げ潮流・下げ潮流を問わず、中神島に当たった潮流が反射して、柴尾山側の陸岸に当たり、再び中神島の北（南）側に近づき弓形の水流となるので、この横圧に対して十分な注意を要する。

ここから東港に至る水道は狭くて見通しも悪く、各種小型船の通航も多いので、一般に行合い船を考慮して憩流時に速力を減じ通航するのが最良である。南航の際は特に西岸のウシコロビ鼻付近は注意を要する。

5 **架空線** 蔵々ノ瀬戸を横断する2架空線（高さ51m及び60m）がある。

三角港 (32° 36′ N 130° 28′ E) (海図W194) (JP MIS)



(2019年11月撮影)

10

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、植物防疫の港、重要港湾

概要 宇土半島南西端にあるこの港は、大矢野島、維和《イワ》島、戸馳《トバセ》島などによって三方を囲まれ、島原湾及び八代海に通ずる天然の良港である。三角ノ瀬戸最狭部を航過したところにある東方の港を西港と呼び、さらに南方へ屈曲する狭水道を航過したところの東側にある港を東港という。東港に三角港の主要な岸壁がある。

15

三角港に至るには、三角ノ瀬戸、蔵々ノ瀬戸、モタレノ瀬戸及び大戸ノ瀬戸の各瀬戸があるが、三角ノ瀬戸と蔵々ノ瀬戸の他は水深が浅く、地元の漁船・定期船などが通航している水路である。

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (G/T×隻)	備考
A岸壁 (-10.0m)	32° 36.3′ N 130° 28.0′ E	170	10	12,000 D/W×1	
B岸壁 (-9.0m)	32° 36.3′ N 130° 27.8′ E	165	8~8.5	10,000×1	
C岸壁 (-9.0m)		165	6.5~7	10,000×1	
新C岸壁 (-7.5m)	32° 36.3′ N 130° 28.1′ E	220	7.5	15,000×1	
新B岸壁 (-5.5m)	32° 36.3′ N 130° 28.2′ E	90	5	2,000×1	
新A岸壁 (-4.5m)	32° 36.4′ N 130° 28.2′ E	60		700×1	
フェリー岸壁 (-4.5m)	32° 36.4′ N 130° 28.3′ E	60	4.5	700×1	
波多ふ頭岸壁 (-4.5m)	32° 36.5′ N 130° 28.8′ E	240	3~4	700×4	

島東端～船人島間を東口とし、長さ約2.8mである。この瀬戸の東半部は南、北二つの水路に分かれている。南側を**丸子ノ瀬戸**といい、地元小型船などが通航する。池島ノ瀬戸西口の南側にある飛竜島（32° 32.1' N 130° 22.8' E、高さ25m）は高杣島とともに池島ノ瀬戸を航行する好目標となる。

5 **赤松ノ瀬戸**（32° 31.8' N 130° 26.4' E）（海図W208）は、瀬戸中央でも水深2m前後の所があり、一般船舶の通航には適しない。

天草上島北岸にあつて天草上島と前島との間の水道を港域とする**合津港**は、北西口は丸子ノ瀬戸に、北東口は赤松ノ瀬戸に通じている。

10 **本渡瀬戸**（32° 26.4' N 130° 12.4' E）（海図W1252）は、天草諸島の上島と下島に挟まれた水路である。開発保全航路（港湾法）に指定され、対象船舶を700D/Wとして、水路の幅50m・水深4.5mを維持している。しかし、航路の海底断面は、すり鉢状をしているため東西両端は浅く、潮差は最大3m以上、湾曲が多く、見通しが悪い。水路北口は本渡港灯標の西側にあり、北口の南方約1.2kmにある昇開橋（32° 26.7' N 130° 12.3' E、高さ17m）には監視員が常駐（4～9月0600～2030、10～翌3月0630～2000）し、船舶が接近すれば所要の高さまで橋げたを上げる。また、昇開橋の北方約270mに天草瀬戸大橋（高さ16～17m）が、その北方約450mに**第2天草瀬戸大橋（仮称）（建設中、高さ約17m）**がある。

15 本渡瀬戸から八代湾に通じる**横島瀬戸**（32° 23' N 130° 14' E）（海図W174）は、水深10m以上の幅は約300mである。北方は、周囲を天草上島、天草下島で囲まれ、水深5～20mで底質も良い。湾内沿岸には養殖施設がある。

20 **本 渡 港**（32° 27' N 130° 12' E）（海図W1252）（JP HOD）

港種 港則法適用港

概要 天草上島と天草下島との間にある。本渡港内に本渡瀬戸がある。

目標

地物名	概位	備考
ホテル	32° 28.4' N 130° 12.4' E	5階建
第2天草瀬戸大橋（仮称）	32° 27.1' N 130° 12.3' E	建設中（2022年度完成予定）、高さ約17m

25 **水路** 港内中央に北東方へのびる防砂堤（高潮時には水没、先端に灯台）があり、その南側に掘下げ水路（幅約50m、水深4.5m）がある。

港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(G/T×隻)	備考
本渡港岸壁(-4.5m)	32° 27.5' N 130° 12.1' E	240	2.5以下	700×4	
本渡港1号岸壁(-4.5m)	32° 27.4' N 130° 12.0' E	60	—	700×2	
本渡港2号岸壁(-4.5m)		82	—	700×1	
本渡港浮棧橋(-4.5m)		70	—	300×2	

台風・津波対策 本港では、台風・津波等による船舶事故を未然に防止するため、三角港等船舶津波、台風等対策協議会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している。(問合せ先：熊本海上保安部)

5 **架橋** 本渡瀬戸北部を横断する天草瀬戸大橋(高さ16~17m)、**第2天草瀬戸大橋(仮称)(建設中、高さ約17m)**及び昇開橋(高さ17m)がある。

架空線 本渡瀬戸を横断する4架空線(高さ、北から約17m、約21m、21m及び36m)がある。

海上交通 本渡港~前島~三角港間及び本渡港~御所浦港間の定期旅客船便がある。

航行上の注意 港内中央にある防砂堤(北東端に灯台がある)は高潮時に水没するため、この防砂堤への乗揚げに注意すること。

10

長島海峡~八代海(海図W174, W178, W206)

概要 長島海峡、八幡瀬戸及び元ノ尻《ガンノシリ》瀬戸の中央線が熊本、鹿児島両県の県境を成し、大型船の常用する航路になっている。唐網代《カラジロ》瀬戸は八代港方面に至る小型船が常用する。また、この海域には多数の好避泊地が得られる。しかし、これらの水道、特に長島海峡及び八幡瀬戸には強潮流があり、一般に幅は広いが險礁が多く、通航は決して容易でない。この海域には夏季に「もや」が発生することが多く、あまり視界が良好でないという。

15

イカ漁期には、イカ釣り漁船が夜間に多数海峡内で操業している。

針路法(第21図参照)

長島海峡を経て八代港へ

- 20 1 長島海峡南口中央付近から戸島灯台(32° 11.9' N 130° 04.9' E)を方位005°に見て進む。
- 2 長島西端の大埼(32° 10.8' N 130° 05.4' E)正横で針路027°に変針し、赤島(32° 13.0' N 130° 05.5' E)と鳴瀬鼻(32° 12.8' N 130° 06.4' E)のほぼ中央に向ける。
- 3 鳴瀬鼻正横で針路052°に変針する。船首目標は待島《マテシマ》灯台(32° 16.6' N 130° 11.4' E)とする。
- 25 4 上の島《カミマテシマ》灯台(32° 15.8' N 130° 09.3' E)正横で針路018°に変針し、**大曾根**(32° 17.0' N 130° 11.0' E、水深4.7m)と天草下島(32° 18' N 130° 10' E)間の中央に向ける。
- 5 天草下島の梶木岳頂(32° 17.6' N 130° 09.3' E、高さ254m)正横で針路054°に変針し、角瀬(32° 18、7' N 130° 11.4' E、暗岩がある)を安全に避けて航過する。船首目標は牧島北側の**萩島頂**(32° 22.2' N 130° 18.5' E、高さ63m)。
- 30 6 **惣津島**(32° 20.2' N 130° 12.6' E)正横で針路095°に変針する。船首目標は葛《ツヅラ》島頂(32° 19.0' N 130° 16.6' E、高さ47m)。
- 7 **獅子島**北端のタグイ埼(32° 18.5' N 130° 15.4' E)正横で針路を除々に右に転じ、葛島とタグイ埼のほぼ中央に進む。
- 8 葛島ほぼ正横で針路144°に変針し、元ノ尻瀬戸を通過する。船首目標は水俣港入口の**恋路島頂**(32° 35 11.9' N 130° 22.0' E、高さ37m)。
- 9 元ノ尻《ガンノシリ》灯台(32° 18.3' N 130° 18.1' E)正横で針路102°に変針する。
- 10 御所浦島の北東部にある山頂(32° 20.7' N 130° 22.2' E、高さ269m)正横で針路045°に変針する。船首目標は柴島(32° 23.4' N 130° 28.7' E、高さ25m)。

底質は貝殻混じりの細砂で錨かきも良い。

港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
フェリー岸壁	31° 50.1' N 129° 51.7' E	80	4~5	—	

補給 清水及び燃料油の補給が少量できる。

5

里 港 (31° 51' N 129° 55' E) (海図W207、W1260)

概要 上甕島の東端、遠見山半島地峡部の両側にある東ノ浦及び西ノ浦を港域とする港である。

この港は、串木野港とを結ぶ甕島列島の表玄関の連絡港、近海漁場の水産基地としての港で、主な港湾施設は東ノ浦の西奥にある。

10

目標

地物名	概位	備考
サイロ	31° 50.9' N 129° 55.3' E	黄色
著屋	31° 50.6' N 129° 55.2' E	ホテル、6階建、白色

港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(G/T×隻)	備考
1号岸壁 (-4.5m)	31° 50.8' N 129° 55.2' E	60	4.2	700×1	
2号岸壁 (-5.5m)	31° 50.6' N 129° 55.3' E	80	4.5	700×1	フェリー使用
3号岸壁 (-7.5m)		130	5.5	2,000×1	

この他、物揚げ場がある。

注意 東ノ浦 (31° 50.7' N 129° 55.8' E) 内の北部は大半が底質さんごで錨地に適さない。

15 西ノ浦 (31° 51.2' N 129° 54.4' E) は、北～北西風以外は各方向の風をよく防ぎ、浦内には陰礁もないが、西埼 (31° 52.0' N 129° 54.2' E) の少し内方にあたる湾の中央に底質岩の所があるので、好錨地とはいえない。

海上交通 川内港及び下甕島長浜港との間に定期高速船便 (197 t) がある。

20

手 打 港 (31° 38' N 129° 43' E) (海図W207、W1260) (JP TEU)

港種 港則法適用港

概要 甕島列島、下甕島南端の手打浦全域及びその東隣の小浦を港域とする港で、港域内に手打漁港がある。

25 手打漁港は、手打浦と細長い砂の地峡で隔てられた小浦で、浦口に点在する諸岩を防波堤でつなぎ、その内側を泊地としたものである。港口は南東方へ開口し、幅約 70m で水深は約 6m、港口東側には馬乗瀬 (31°

港湾施設

名称		概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
本港地区	-5m岸壁	31° 28.5' N 131° 06.7' E	135	3.5~5	1,000×2		
	-5.5m岸壁		100	4	2,000×1		
外港地区	A岸壁 (-5.5m)	31° 28.3' N 131° 06.5' E	270	2~5.5	2,000×3		
	B岸壁 (-7.5m)		130	7~7.5	5,000×1		
	C岸壁 (-10m)		185	9	15,000×1	RORO船が発着する。	
	D岸壁 (-7.5m)	31° 28.1' N 131° 06.3' E	260	7	5,000×2		
	E岸壁 (-8.5m)		200	4~8.5	14,000×1		
若浜地区	旅客船ふ頭		220	7.5	15,000×1	耐震岸壁 旅客船	
	若浜中央ふ頭	1号岸壁 (-12m)	31° 27.9' N 131° 06.1' E	240	12	30,000×1	
		2号岸壁 (-9m)		165	8~9	10,000×1	フェリー使用
		3号岸壁 (-8m)		75	7.5	5,000×1	
		4号岸壁 (-7.5m)		315	7.5	5,000×2	
		5号岸壁 (-5.5m)		180	5.5	2,000×2	
		岸壁 (-4.5m)		120	—	450×2	
		若浜南ふ頭		1号岸壁 (-7.5m)	31° 27.5' N 131° 05.5' E	130	7.5
	2号岸壁 (-5.5m)		90	5.5		2,000×1	
	新若浜地区	新若浜 1号岸壁 (-14m)	31° 27.1' N 131° 05.3' E	280	14	50,000×1	コンテナ船用、クレーン2基

この他、若浜地区若浜南ふ頭の南側に専用の2ドルフィン栈橋（最大係船能力各 65,000 D/W）がある。外国貿易船が使用する港湾施設などの保安を強化するための立ち入り制限区域がある。

引船 引船がある。

5 補給 清水の補給ができる。

台風・津波対策 本港では、台風・津波等による船舶事故を未然に防止するため志布志港及び内之浦港台風・津波対策委員を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している。（問合せ先：志布志海上保安署）

海上交通 阪神港（神戸）との間にカーフェリー一便（14,000 t 級）、RORO 船の定期船便（2,100 t 級）がある。

細島港 (32° 27′ N 131° 40′ E) (海図W1223) (JP HSM)

商業港



(2019年9月撮影)

工業港



(2019年9月撮影)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、重要港湾

概要 この港は、**牧島** (32° 26′ N 131° 40′ E) 南側の商業港、牧島北西方の工業港、牧島北側の白浜地区及び外港に分かれ、工業港には航路が設定されている。北隣に**門川漁港**がある。

目標

地物名	概位	備考
枇榔《ピロウ》島	32° 27.9′ N 131° 43.9′ E	高さ 75m (島頂付近に灯台がある)、北側の立岩 (高さ 52m) は顕著である。
飛《トビ》島	32° 25.5′ N 131° 41.5′ E	高さ 40m、北岸に定置網がある。
高遠見山	32° 25.4′ N 131° 41.1′ E	高さ 103m、山頂付近に細島灯台がある。
米ノ山	32° 25.2′ N 131° 39.8′ E	高さ 192m、山頂付近に5無線塔 (2基に白灯がある) がある。
乙《オト》島	32° 27.9′ N 131° 40.1′ E	高さ 79m

5

10

防波堤北側から東北東方向に延びる防波堤（沖北）（先端に灯台がある）、港口東沖の南北にある防波堤及び火ノ上山地区岸壁等に囲まれている。

港の背後にある宮之浦は、屋久島第一の集落で役場、交番などがある。

目標

地物名	概位	備考
3油タンク	30° 25.7' N 130° 34.4' E	銀色
ホテル	30° 26.0' N 130° 34.1' E	白色
フェリーターミナル	30° 25.9' N 130° 34.3' E	白色、円形

- 5 針路法 巡視船（963 t）は、3油タンクを針路230°に見て港に進入する。

港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
北ふ頭1号岸壁(-7.5m)	30° 25.9' N 130° 34.4' E	180	6.5~7.5	5,000×1	フェリー使用
北ふ頭2号岸壁(-5.5m)		80	4~5.5	2,000×1	
火之上山ふ頭1号岸壁(-7.5m)	30° 25.5' N 130° 34.8' E	250	7~7.5	5,000×2	
中ふ頭1号岸壁(-5.5m)	30° 25.8' N 130° 34.4' E	90	4~5	2,000×1	
中ふ頭2号岸壁(-5.5m)		90	4~4.5	2,000×1	

補給 清水は少量ならば補給できる。

海上交通 鹿児島港・島間港・口永良部漁港との間にフェリー便が、鹿児島港・指宿港・西之表港との間に定期旅客船（ジェットfoil）便がある。

10

一 湊港 (30° 28' N 130° 29' E) (海図W216分図)

概要 屋久島北端の矢筈崎を外端とする小さな半島の西側にある港則法適用港であり、漁港でもある。港奥の西岸に南、北（東部に灯台がある）両防波堤に囲まれた内港があり、その奥に漁船だまりがある。

- 15 錨地 巡視船（963 t）は、屋久島電工の専用突堤（30° 27.4' N 130° 29.8' E）を針路127°に見て湾内に進入し、湊鼻から045°約280mに錨泊する。

港湾施設 北防波堤基部の南側に岸壁（長さ約120m）があり、300 t級船舶が着岸できる。また、港奥東部に屋久島電工の専用突堤（長さ約110m）があり、2,000 t級船舶が着岸できるという。

補給 清水、燃料油とも少量ならば補給できる。

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
長浜観光船岸壁	28° 23.5' N 129° 29.8' E	280	10	30,000×1	
本港1号岸壁	28° 23.2' N 129° 29.7' E	185	9~10	10,000×1	フェリー使用
本港2号岸壁		185	13~14	10,000×1	工事中
新港3号岸壁		160	-	2,000×1	耐震岸壁
本港C岸壁	28° 23.0' N 129° 29.7' E	90	-	80GT×1	
佐大熊A岸壁	28° 23.7' N 129° 30.3' E	140	5.5	2,000×1	
佐大熊B岸壁		100	5.5	2,000×1	
佐大熊C岸壁		100	5.5	2,000×1	
佐大熊D岸壁		130	-	2,000×1	

通信 船舶と港長との間で無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	呼出応答/通信チャンネル	運用時間	連絡先
かごしまほあん Kagoshima Coast Guard Radio	16/12ch	常時	奄美海上保安部

台風・津波対策 この港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため名瀬港台風・津波等対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している。(問合せ先、奄美海上保安部)

補給 清水の補給は主な岸壁でできる。また、給油船がある。

最大入港船舶 2014年5月1日、客船サン・プリンセス(77,441t、喫水8.1m)が長浜観光船岸壁に着岸した。

医療施設

名称	電話番号	備考
鹿児島県立大島病院	0997-52-3611	

10 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
奄美海上保安部(港長)	0997-52-5811	門司植物防疫所名瀬支所	0997-52-0459
鹿児島県大島支庁建設課	0997-57-7332	長崎税関 鹿児島税関支署名瀬監視署	0997-53-3271